

# — 平成 26 年度 丹波市施政方針 —

市制 10 周年キャッチフレーズ

人かがやいて 10 年

夢きらめいて未来



丹 波 市



はじめに

平成26年第72回丹波市議会定例会の開会にあたり、議員の皆様のご健勝をお喜び申し上げますとともに、日頃のご精励に敬意を表する次第でございます。

本日、ここに、平成26年度予算案及び諸案件のご審議に先立ち、市政の重点課題についてご説明を申し上げまして、議員の皆様をはじめ、市民の方々のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

### **【丹波市の経済再生】**

重点課題の第1点目は、丹波市の経済の再生であります。

わが国の経済は、政府による一連の経済政策が功を奏し、円高是正を背景に大企業を中心として明るさが出てきておりますが、地方にまで及んできているとは言い難いものであり、まだまだ厳しい状況と言わざるを得ません。本格的な経済再生に向けては、我々地方への広がり大きなカギを握っており、この広がりこそが、持続可能な真の経済成長につながるものであると考えます。

昨年、一時的なものではないかと懸念されていたGDPや有効求人倍率などの経済指標の上昇は、安定して推移しておりますが、現在では、労働者賃金の上昇が大きな課題となっております。さらに、4月から実施される消費税の引き上げに伴う駆け込み需要の反動などのリスクも懸念されているところでございます。

また、わが国は本格的な人口減少社会を迎えており、兵庫県の人口も減少に転じている中、丹波市の人口は、平成6年をピークに減少を続け、合併当時7万人を超えていた人口は、現在では、住民基本台帳ベースで、6万8千人まで減少しております。私たちは、かつて経験したことのない人口減少、少子高齢社会を迎えており、丹波市も大きな転換期にあると言えるでしょう。

このように、先行きがまだ不透明な経済状況、厳しい社会情勢ではございますが、今こそ、丹波市においても、成熟社会にふさわしい社会システムの再構築に向けて、果敢にチャレンジしていかなければなりません。また、成熟社会とは言え、経済の活力なくして、豊かさを実感することはできないものと考えております。

丹波市の経済再生に向けては、一層の取り組みが必要であり、新たな雇用の創出や起業支援などにも取り組まなければなりません。

また、農業についても、丹波市ブランドの確立に向けた取り組みや販路の拡大、収益性の向上、担い手の育成などにより、その力を高めていく必要があります。

### **【市政に対する信頼回復】**

重点課題の第2点目は、度重なる不祥事によって大きく失墜した市政に対する信頼の回復であります。

私は、丹波市誕生にあたり初代市長として、この10年間、市政運営に一番大事なものは、市民の皆様との信頼であると考え、市政に対する多くの声をお聞きする中で、心の合併や地域づくりの推進など、参画と協働のまちづくりを推進してまいりました。

しかしながら、度重なる不祥事につきましては、誠に遺憾であり、市政をお預かりする市長として大変申し訳なく、衷心よりお詫びするとともに、一日も早い徹底した真相究明と再発防止に全力で取り組む所存でございます。

二度とこのような不正事務処理を繰り返さないという強い決意のもとに、客観的かつ公正な検証を行うため、外部委員から成る「第三者委員会」を設置しており、一連の事務処理の検証と再発防止策の提言を求め、ご意見を頂戴しているところでございます。また、丹波市内部組織においても、先の臨時議会で議決をいただきました公営企業管理者の設置や契約に関する検査部門の充実、不正事務処理等再発防止委員会の開催など、人事面や行政組織の見直しを行い各職場の自浄能力を高めるための努力を一層強め、職場風土の改善に取り組んでまいります。

不祥事の重大性を十分に反省し、認識も新たに、これまでの不正な事務処理の真相の究明と実態把握、さらには再発防止について迅速に対応するとともに、一日も早い信頼回復に努め、市制10周年を再出発の節目とすることができるよう、職員一丸となって市政運営を遂行してまいりたいと考えておりますので、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 【『明日につながる』未来づくり】

次に、わがまち丹波市は、議員の皆様ご承知のとおり、本年11月1日で市制10周年という大きな節目を迎えようとしております。

丹波市は、平成16年11月に「人と自然の交流文化都市」を目指して旧氷上郡6町が合併して誕生いたしました。この10年間、小学校区単位における地域課題の解決や財政基盤の確保、また、一般廃棄物処理施設の建設や新しい公共交通の運行、更には、市民主導で策定した「自治基本条例」に基づいた参画と協働によるまちづくり、認定こども園の建設、など様々な施策に取り組んでまいりました。

これらの取り組み実績を礎に、ようやく次のステップへ飛躍する舞台も整ったと考え、平成26年度は、新たな10年に向けてスタートする重要な年度であると認識しております。

## 「人かがやいて10年 夢きらめいて未来」

これは、市民の公募作品の中から決定いたしました市制10周年のキャッチフレーズであります。

これまで10年間の市民の輝きを表現し、更に未来に向けて、元

気あふれる笑顔とともに、新たな気持ちで夢がきらめくような丹波市にむかって飛躍するという想いが込められております。

市政運営にあたっては、国内外の経済・社会情勢を的確に捉え、時代の先を読みながら、20年後、30年後の丹波市の理想像に一歩一歩と着実に近づくことが重要であると考えております。

新たな10年へ向けた道筋を描き、『明日につながる』未来づくりに取り組むことは、丹波市の輝かしい未来の創造につながるものと確信しているところでございます。

### **【暮らしの安全・安心】**

重点課題の第4点目は、暮らしの安全・安心です。

私が進めようとするまちづくりの最も重要な課題は、少子化対策であると考えております。

合併当時である平成16年の出生数は、641人でありましたが、平成25年には、509人と20%以上減少しているところでございます。

地域における子育て支援や子どもたちが心身ともに健康で幸せな



生活を送ることのできる環境づくりは勿論ですが、安心して暮らせる元気で活力あるまちづくりに向けたあらゆる施策が少子化対策に繋がるものと考えます。

先行きの不透明感を払拭できない現在、日常生活や子育て、医療、介護、災害などの市民の不安を取り除くこと、そして「安全・安心」を確立することは、市民の最大の願いであると思います。

市民の「安心」には、防災・減災対策や風水害対策は欠かすことのできないものであり、市民への適時・適切な災害情報の提供や集中豪雨に対する治水対策が必要であると考えております。

一方、市民の「安全」という面では、登下校時の児童に係る通学路の安全確保や交通安全意識の向上などに取り組むほか、老朽化が進む橋りょうの長寿命化や計画的な道路整備を推進してまいりたいと考えております。

さらに、阪神・淡路大震災から20年目を迎えることから、決して忘れてはならない震災の教訓を再確認し、次世代へと継承することが極めて重要であると考えております。自然災害への「備え」は、丹波市では全小・中学校の耐震診断を行い建物の耐震補強などのハ

一ド面の対応はできていますが、いざという時のすばやい避難行動や防災意識の向上なども欠かすことができません。ハード・ソフトの両面からの「備え」を進めていくことが必要であり、地域の更なる防災力の強化に努めてまいります。

### **【若者に魅力あるまち】**

最後に、第5点目としては、若者に魅力あるまちづくりです。

山積する丹波市の課題のうち、人口減少に歯止めをかける対策は、極めて重要なものであり、喫緊の課題であると認識しております。

若者の定着策をこれまで以上に講じる必要があると考え、若者にとって住みたい、住み続けたいと思えるような魅力あるまちづくりを推進することが必要です。

ふるさと回帰支援センターの近年の調査では、20歳代から40歳代の移住希望者の3分の1が「半農半X（エックス）」のライフスタイルを希望しており、新しい分野としての就農や今まで取り組んできた仕事や経験を活かして自ら起業を志向する割合も3割近くまで増加するという結果が出ております。

このような若者移住という新潮流にも注目し、「人が人を呼び、地域が人を活かす」といった視点で、若者それぞれの自己実現がしや

すい場づくりも重要であると考えます。

若者や女性を意識した取り組みをはじめとして、住宅の新築や改修の一部助成などの定住促進対策、そして新たな雇用の創出、手厚い子育て支援などを重要課題と位置づけ、様々な取り組みを進めるとともに、これらの施策を若者に向け、積極的な魅力発信に取り組んでまいりたいと考えております。

以上、市政の重点課題について述べさせていただきました。

平成26年度の予算編成にあたりましては、市制10周年を強く意識するとともに、3期目の所信表明で申し上げました「安心して暮らせるまちづくり」、「元気で活力あるまちづくり」、「歴史、文化、芸術、スポーツが息吹くまちづくり」、「環境にやさしいまちづくり」、そして「信頼される行政」の5つの基本姿勢を堅持し、様々な施策の展開を図ってまいります。

また、合併特例措置の縮小による普通交付税の段階的な減収を目前に控えた状況にあることから、選択と集中による行政サービスやその水準の見直しなど更なる行財政改革の推進を図り、多様な市民

のニーズや社会情勢の変化に対応できる行財政構造の構築を目指し、経済のグローバル化、高度情報化、少子高齢化、地方分権社会への対応など多種多様な施策を限られた財源の中で効率よく効果的に取り組むこととしております。

それでは、新年度の重点施策を5つの基本姿勢に沿ってご説明を申し上げます。

まず、第1は、「安心して暮らせるまちづくり」でございます。

昨年度、中学校3年生まで医療費の全額無料化を行いました。本年度は、次代を担う子どもの出産を奨励するため、「ツー・プラス1 出産祝金」として、第3子以降を出産した世帯に対し、祝金を支給する事業を新たに始めます。

安心して子どもを産み育てられる環境を整備していくためには、質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供や地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実を図る必要があると考えております。

このため、幼児期の学校教育や保育、子育て支援施策などの状況や子育てに関するニーズを把握したうえで、適切な支援を実施する

ために子ども・子育て支援事業計画の策定に取り組みます。

学校教育につきましては、児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、いじめ・暴力ゼロ市民運動を推進してまいります。児童会・生徒会代表者による「いじめ・暴力ゼロサミット」や世界で活躍するトップアスリートから直接お話を聞く「JFAこころのプロジェクト“夢の教室”」を開催するほか、各学校に設置されているいじめ対応チームへのアドバイスの役割を担う「学校いじめゼロ支援チーム」を本格的に実施するなど積極的な施策展開を図ります。

学校施設整備では、青垣地域の4小学校統合に向けた設計にも着手致します。

さらに、子どもたちの安全・安心な保育を推進することとし、現在、認定こども園においては、県の補助事業を活用して2園で病児・病後児保育を実施しております。他の認定こども園につきましても、市の一般財源により、看護師を配置するための助成を行い、子どもたちを安心して預けられる環境づくりに取り組んでまいります。

丹波市の未来を担う若い世代の考え、思いにスポットをあてた「青

少年の主張大会」や「丹波市子ども議会」の開催を通して、彼らが何を考え、何を感じているのか、そして丹波市にどのような思いを持っているのかを直接感じ取る機会につなげたいと考えております。

健康の分野では、「笑顔かがやく健康のまち 健康寿命日本一をめざして」、平成 18 年 4 月に宣言いたしました「健康寿命日本一」を具体的な健康づくりの取り組みとして、よりわかりやすく、また、親しみやすく身近に意識していただけるよう、睡眠に注目した「ぐっすり・すやすや運動」を展開し、市民のみなさんと一緒になって健康寿命日本一宣言を明文化し、健康寿命の延伸をめざす機運を高めます。あわせて、健康ポイント制度を導入することにより、家族や地域ぐるみの健康づくりにつなげたいと考えます。

福祉の分野では、地域における福祉への理解と認識を深めるとともに、ふれあい、支えあい活動の輪を広げるため、丹波市社会福祉協議会と共催で「ささえあい、みんなで鳴らそうたんば輪（りん）たんば福祉フェスタ」を開催し、福祉への関心と理解を深め、地域とともに支えあう活動の輪を広げてまいります。

一方、暮らしの安心に欠かすことのできない災害情報の強化を図るため、市域の75%を山林が占めるという丹波市の特色を踏まえ、兵庫県のフェニックス防災システムを活用し、「箇所別土砂災害危険度予測システム」を構築します。これは、豪雨等による土砂災害の危険箇所を箇所別に予想し、市民へ精度の高い情報を発信するものでございます。

空き家に関する対策は、丹波市においても喫緊の課題となっており、これまで「規制」と「活用」の二正面から検討を重ねてまいりました。本定例会において、「丹波市空き家等の適正管理及び利活用の促進に関する条例」の制定につきまして上程しているところであり、この条例を足場として、着実な空き家対策に取り組んでまいりたいと考えております。

また、「安全・安心のまちづくり in TAMBA 絆」として総合防災訓練を実施いたします。市民、自治会、消防団、そして警察、自衛隊、医療関係者など関係機関の積極的な参加を得て文字どおり市民力を結集した、相互連携の強化や防災力の向上につなげる安全・

安心のまちづくりに取り組みます。

治山事業としては、集中豪雨等による山林からの軽微な土石流を一時的に貯留させ、下流域の家屋等の被害を防止するための土砂貯留施設の整備費補助の拡充を図ります。

さらに、全国で登下校中の児童の死傷事故が相次いで発生している状況を踏まえ、一昨年度実施した緊急合同点検結果に基づき、蓋掛けによる歩行空間の確保やカラー舗装化などを引き続き実施するとともに、道路交通の安全を確保するため、橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、計画的な橋りょう修繕の工事に着手してまいります。

第2は、「元気で活力あるまちづくり」でございます。

まず、農業につきましては、丹波市の気候と豊かな土壌がもたらす食材のひとつである野菜を全国にむけて、より一層アピールすることにより丹波市ブランドを確立させ、地元野菜への誇りや就農者の増加につなげたいと考えております。その契機となる事業として環境に配慮した有機農業フェスティバルの開催を予定しているところでございます。



また、平成26年度は丹波栗をひとつの重要な産業として着目しております。丹波栗のブランドを全国に再発信し、丹波栗の一層の生産振興に向け、ハード・ソフトの両面から積極的に諸施策を展開してまいります。そして、市内外にその姿勢を積極的にアピールするため、丹波スイーツフェスティバルを開催し、丹波栗を活用した新しいスイーツやその他丹波市の特産物を生かしたスイーツを一堂に集め、紹介・販売するなど、イベントを通して、栗の魅力を発信し産業振興につなげたいと考えているところであります。

一方、新たな雇用の創出や起業の支援という面では、市内で起業しやすい環境を整え、丹波市に魅力を感じ、丹波市で起業しようとする若者や女性、第2創業並びに農業、林業、観光、商業など様々な分野や階層の有望起業家を発掘・支援してまいります。具体的には、「ふるさと起業支援～たんばチャレンジカフェ～」(仮称)を設置して相談業務を行うほか、能力支援として、起業に必要な経営ノウハウを学ぶセミナーの開催や起業分野の専門家による相談やアドバイスを実施いたします。

また、市民から好評をいただいております“たんば共通商品券”に10%を付加したプレミアム商品券につきましては、市内での消費拡大と景気浮揚を図るため、引き続き支援するとともに、平成26年度は、市制10周年を記念して、プレミアム商品券による2つの地域の店舗を巡るラリーポイントを実施し、市民が市内を周遊する機会を創出し、市内全域での機運を高めます。

加えて、丹波市へU・Iターンされる方や新たに二世帯同居をされる方の住宅の新築や新規購入費用の一部助成を拡充し、人口減少の抑制を図ってまいりたいと考えております。この「いきいき定住促進住宅助成」では、住宅の新築または新規購入の場合、中学生以下のお子様がいらっしゃる世帯に補助金を加算し、最大100万円の助成を行います。また、東京で開催される「ふるさと回帰フェア」に参加し、東京での田舎暮らし相談会を開催したいと考えております。

さらに、国内最大級の恐竜を活かしたまちづくりでは、既に着手している遊歩道や広場の整備に加え、丹波竜の実寸大のモニュメン

トの建設に取り組むとともに、恐竜化石にとどまらず、背景にある景観や地層などの豊かな自然環境や風土、文化を活かし、篠山層群一帯をオープンエアミュージアムとして位置づけ、丹波市の魅力を広く全国に発信してまいりたいと考えております。

第3は、「歴史、文化、芸術、スポーツが息吹くまちづくり」であります。

「旧氷上高等小学校校舎」として兵庫県指定 重要有形文化財に指定されております大手会館につきましては、歴史的建築物としての価値を保存し、教育の中で果たしてきた役割、価値を多くの方々に理解していただくとともに、誘客の有効な資源のネットワークの拠点として活用するほか、市民の交流拠点としても活用してまいりたいと考えております。現在、改修工事を進めておりますが、平成27年4月のオープンに向け、周辺広場の整備にも取り組んでまいります。

また、市制10周年を契機に市民の皆さまのアイディア、発想をご提案いただき、ご提案者自らが企画運営、そして実施することに対して事業費を助成する市民提案事業の支援に取り組めます。市民

の皆さまが、様々な角度からの発想で、地域そして丹波市を盛り上げ、明日につなげていただきたいと期待しているところでございます。

さらに、大相撲の地方巡業「丹波場所」の開催を計画しております。商工会、自治会長会、観光協会、青年会議所をはじめ、市内で中核を担う16の市民団体のみなさんが連携して取り組んでいただくことにより、この事業の成功を期するものでございます。大相撲の伝統と文化に直接触れることは、市民にとっても貴重な体験であり、10周年を迎える丹波市にとっても意義深いことと捉えております。

歴史・文化を活かすという面では、市制10周年を記念して、恒例のたんぼときめきカルチャーのスペシャル版を開催いたします。

第4は、「環境にやさしいまちづくり」であります。

「災害に強い、低炭素な地域づくり」を目指し、環境省のグリーンニューディール基金事業を活用して公共施設に太陽光発電設備と蓄電池の設置を行います。

また、二酸化炭素を排出しない電気自動車の普及は二酸化炭素削減効果が高いことから、その利便性を向上させるため、電気自動車の充電設備を整備し、都市部や遠方からの誘客による観光、産業、ビジネス等への経済効果を図ります。

一方、長年の懸案でありました新しいごみ処理施設「丹波市クリーンセンター」につきましては、地元はもとより関係各位のご理解とご協力をいただき、既に建設工事に着手しており、平成26年度中に完成する予定でございます。

最後に、「信頼される行政」でございます。

先ほど、2つ目の重点課題で申し上げましたとおり、市政に対する信頼回復は急務であり、一日も早い徹底した真相究明と再発防止に全力で取り組む所存でございます。

信頼される行政を再構築するため、丹波市職員人材育成基本方針に基づき、職場環境、組織構造、職員個人の課題意識を総合的に捉え、職員が一丸となって職場風土の改善と人材育成に取り組んでまいります。

以上、予算の概要について述べさせていただきました。

◎ 平成26年度の会計毎の予算額としましては、

一般会計 365億円

特別会計 194億2,930万円

公営企業会計42億6,400万円

合計 601億9,330万円 を計上し、

前年度と比較しますと、予算総額で3.4%の増、一般会計においては0.8%の増となっております。

こうした考えのもと、この素晴らしい丹波市において、市民、地域、団体、企業等の様々な活動がますます躍動できる基盤づくりを行い、皆様とともに未来に期待のもてる確かな歩みのなかで、「誇りのもてる住んでよかった丹波市」を創っていきたいと決意しております。

どうか、議員各位をはじめ市民の皆さまには、一層のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げまして、私の施政方針といたします。

ご清聴ありがとうございました。